

BRICS の停戦への秘策？

鈴木 頌

2023 年 11 月 29 日

最近では BRICS の動きの観察に追われている。その中で得た私なりの感触を書いてみたいと思う。

今、世の中では、ガザ事態をウクライナと重ね合わせてダブルスタンダードだという意見が多くあるが、それらの多くは矛盾しており、批判する側が一種のダブルスタンダードに陥っている。

いちばん大事なスタンダードは、そのようなレトリックではない。肝心な点はアメリカがいたるところで、いつまでも戦争を続けようとしていることにある。

だから戦争を止めることは、たんに平和や人命の問題ではなく、アメリカの軍事覇権と正面から向き合うことでもあるのだ。

そのためには、まず戦争を仕掛けている側が銃を置かなくてはならない。すなわちロシアとイスラエルに停戦を迫ることである。その際にダブルスタンダードという言葉を持ち込むのはやめるべきだ。そんな言葉のために闘っているわけではない。

イスラエルに停戦を求める責任と力を持つのは米国だ。ロシアに停戦を求める力があるのは中国・新興国・途上国の連合だ。

この内、平和のイニシアチブが取れるのは、言うまでもなく新興国の連合した力だ。

つまり、中国・新興国・途上国が一致してロシアに一方的停戦を求め、その際にロシアを決して孤立させないと保障することだ。その際の最低の約束は NATO 加盟の保留だ。

2022年2月の開戦前、あるいは4月のエルドアン仲裁への原状復帰についてはわからないが、それは主要な問題ではない。

ロシアに一方的停戦を求める際にはもう一つの条件がある。ロシアの停戦をイスラエルへの停戦強制と結びつけることだ。

もしイスラエルがこれに従わないのなら、BRICS11がエネルギー・食料分野で持つ潜在力が発揮されるだろう。また国連での多数の力を背景にジェノサイド条約が発動されることになるだろう。

まだ詳細は不明だが、南アのイニシアチブでいま連続的に開かれている BRICS の各級会議は、そのような内容を含んでいるのではないかと思う。

(了)